

## 天才画家 ピエール= ジョゼフ・ルドゥーテ Pierre-Joseph Redouté



代々画家を生業とする家の次男として生まれる

ボタニカル・アートの天才画家 ピエール= ジョゼフ・ルドゥーテ [ Pierre-Joseph Redouté ] (1759~1840年)は、現在のベルギー南東部、フランス語圏ワロン地方のアルデンヌの豊かな森に囲まれた静かな町サン・ユベール(サン・チュベール)に、代々画家を生業とする家の次男として生まれました。  
(一般社団法人日本ルドゥーテ協会HPより転載しました。以下同様)

### マリー・アントワネットやジョゼフィーヌに仕える宮廷画家

フランス革命の動乱期、ルイ16世王妃マリー・アントワネットの募集室付素描画家として、のちにナポレオン1世皇妃ジョゼフィーヌに仕えた宮廷画家として自然史博物館付植物画家・図画講師を歴任しました。

### 輪郭線を可能な限り排除、点の集合で陰影を表現

ルドゥーテは、植物学的正確さを踏まえ、独特の手の込んだ技法スティップル・エングレーヴィング [ stipple engraving ] (点刻彫版法)による多色刷り銅版画に手彩色を施すことにより、輪郭線を可能な限り排除し、点の集合で陰影を表現した細密、繊細優美な色彩の濃淡によって芸術性豊かな植物の肖像を描き出すことに成功しました。

### 世界中のバラを描いた『バラ図譜』[ Les Roses ]

代表作は、バラ栽培に情熱を燃やし『近代バラの母』とも呼ばれている皇妃ジョゼフィーヌの宮殿マルメゾン城の庭園に集められた世界中のバラを描いた『バラ図譜』[ Les Roses ] (1817~24年)です。

ボタニカル・アート(植物を描いた博物画)の金字塔といわれる図版169点、扉絵のリースの作品を含めた全170点の大著です。

### ボタニカル・アートの頂点

その他『ユリ科植物図譜』[ Les Liliacées ] (1802~16年)『美花選』[ Choix des plus belles fleurs ] (1827~33年)等、ボタニカル・アートの頂点を極め、古今東西最も名声を得た彼は『花のラファエロ』『バラのレンブラント』とも称され、その作品は、今も多くの人々を魅了し続けています。

Pierre-Joseph Redoute  
ピエール・ジョゼフ・ルドゥーテ『バラ画』



170

ベンガルローズ Rosier du Bengale

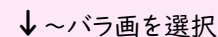


塗り絵の里(完全無料の塗り絵素材)



塗り絵の里\_植物画\_ピエール・ジョゼフ・ルドゥーテ

Pierre-Joseph Redoute(ルドゥーテ)  
(317枚)



左記『バラ画』シリーズを作成  
全198枚

各ページ左下の番号1-170が  
『バラ図譜』[ Les Roses ] (1817~  
24年)です